

令和3年7月2日

学校法人三幸学園  
横浜こども専門学校  
校長 坂本 紀典 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 仁保 亜沙

### 学校関係者評価委員会実施報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 田辺 有二（社会福祉法人幼年保護会 横浜家庭学園 園長）
- ② 磯山 真子（社会法人ル・プリ かさまの杜保育園 園長）
- ③ 仁保 亜沙（幼保連携型認定こども園いのやま幼稚園・保育園 保育教諭 2016年度卒業生）
- ④ 大島 一仁（社会福祉法人川崎愛児園 白山愛児園 保育士 2017年度卒業生）

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3年6月24日（会場 横浜こども専門学校 403教室）

#### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 令和2年度 学校法人 三幸学園 横浜こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 梅田 正憲

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 仁保 亜沙

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

・愛され8か条(教育目標)の可視化到達地点の明確化

→2019年度に愛され8か条の各項目について実習就職協力園や卒業学年から意見を頂き「具体的な行動指針」を作成。その具体的な行動を HR などで伝達予定だったが、コロナ禍により分散登校、メディア授業の活用により、生徒の登校制限があり、徹底・浸透まではできなかった

・教務力の向上

→多様化する生徒、保護者への対応が必要であり、生徒保護者に合った教員が対応をする等、勉強会や定例で学年会を実施し、問題点の共有を行い、適切な対応ができるように運営を行った。

結果としてクラスアンケート後期はこども校分野で全国1位

退学率については、1年生 昨年度とほぼ横ばい/2年生・3年生 昨年度より低減されている。

1年生の退学率は全国平均と比べると高い数字で推移しているため、改善が必要。

・授業力の向上

→授業見学 WEEK を実施し、教員自身の授業力向上に努めた。授業アンケートの結果を踏まえて、改善点など上がってきている場合、どのように改善をするのか授業担当教員からクラスへフィードバックを行う。授業アンケートで2点台がある教員については個別面談を実施。

結果として授業アンケート後期はこども校分野で全国3位

・教務管理の定着、管理の徹底

→コロナ禍において教務管理が昨年度より煩雑化。(課題の管理等)整備ができていない状態。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

梅田(昨年度について)

昨年度はメディア授業を導入し、通年で分散登校を行った。メディア授業に一人で取り組むのが難しい生徒も多く、そこから退学に繋がったケースもあったが、園などではどのような対応をしているのか。

田邊委員(メディア授業について)

多くの子ども達が40分授業も授業に集中できない現状がある。1/3程度の子ども達は集中して授業を受けることができるため、それ以外の子ども達は少しずつ集中できる時間を延ばす支援をしている。昨年は大学等でメディア授業を行ったが、課題の量が多く、学生としては難しい。考えさせようとして課題作成をしても、それぞれの授業での課題の量が膨大となり、授業間での調整やそもそもの課題内容の設定が必要である。

大島委員(メディア授業について)

保育士養成校の授業は、ピアノ・おりがみ等の実技授業においては、メディア授業は難しいと思う。

仁保委員(メディア授業について)

こども総合学科に在学中に授業前の準備ができていなかった同級生もいたので、それがメディア授業になり、そして課題を出さなくてはならないのであれば、一人で取り組むことは難しいことだと思う。一人でも取り組める仕組み作りが必要だと感じる。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

#### ①課題

- ・園、施設との関係性を深め、業界の動向や求める人材像を正確に捉えること
- ・現場が求める人材像とのギャップを効果的に埋めていく指導を実施すること
- ・教育目標（愛され8か条）を生徒が習慣化すること
- ・保護者に対しての保育分野で求められる人物像について理解をして頂き、学校の指導への協力を仰ぐこと

#### ②今後の改善方策

- ・就職先や実習先との積極的な関係構築（実習就職連絡協議会の実施）
- ・愛され8か条の各項目における具体的行動の理解と自己点検の実施
- ・保護者への教育理念や育成人材像の共有と理解を深めるために、保護者通信の内容の充実を図る

#### ③特記事項

- ・年3回の全体会議にて、学園教育理念・ビジョン・ミッション・本校教育目標を教職員へ周知を図っている
- ・生徒へはHRや日常生活を通して、口頭並びにポスター掲示や装飾等で浸透を図っている
- ・クラス委員会は全学年が集合をする全体会と各学年で実施をする学年会を実施し、教育目標の浸透を図っている

#### ④学校関係者評価委員会コメント

田邊委員（現場が求める人材について）

人の話を聞ける人が現場で求める人材だと思う。我が道を行く人は、一緒に仕事しても難しい。横浜こども専門学校の卒業生（保育科・こども総合学科卒業が在職）が現場で働いているが、素直な人物が多いと感じる。正直に自分のことを話せる人・話を聞ける人は信頼関係の構築ができ、周りからも協力をしてもらうことができる。

磯山委員（現場が求める人材について）

横浜こども専門学校の卒業生（保育科・こども総合学科卒業生が在職）が活躍しているが、園長や主任が心掛けていることは、個々の得意な部分を認めて、少しずつ自信がついてきている。そこから求める人材については、何でもいいので自分の好きなことや得意なことがある方が人材として望ましい。自己肯定感が低い学生が多いので、授業内で得意なことを見つけ、自信をつけ、授業や学校行事を通して自己肯定感を高めるような指導をしてほしい。

仁保委員(実習先の意見として)

実習生で実習中に質問がないと、意欲が無いと感じてしまう。学校によつての差ではなく、実習生の差だと感じる。他校の実習生もいるが、比較しても横浜こども専門学校の実習生は挨拶ができると思う。

## (2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

- ・人事、労務、就業環境の整備に努め、業務の効率化を図る
- ・均等な業務割り振りが難しく、業務量に偏りが生じているため、効率化を図るとともに人材育成が必要
- ・各教育活動の目的目標を明確にし、取り組みや活動については積極的に公開し、振り返り改善に努める

### ②今後の改善方策

- ・事務関連の担当者でチームを作り、定例会を開催し課題の確認と対策方法を検討する体制を整える
- ・教務管理システムの有効活用(出席管理をWEBで行う等)
- ・業務の偏りの分散と人材育成を兼ね、統括者と主担当者を校務に割り振りを行い、個々の業務の幅を広げる

### ③特記事項

- ・業務時間削減に向けた意識改革
- ・時間外労働時間の目標時間の設定を教職員自身が行い、一人一人の意識改革を行う
- ・時間外労働時間の毎月の結果を学年会で共有し、業務分担を行えるようにする

### ④学校関係者評価委員会コメント

田邊委員(業務の効率について)

児童養護施設は施設自体が子ども達の生活の場であるため、職員の勤務の調整をしているが、改善がなかなか難しい現状がある。ただPCを使用した業務においては効率化の効果を感じている。

磯山委員(業務の効率について)

効率化ができておらず、園では業務時間に関しては課題でもある。どこかに無駄があると絶対にあると思うので、職員に意見を出し合って、改善をしている。時間外勤務については、時間内で行うことを意識している。また、園の保護者の方もお迎えが早くなっている。ICT化で連絡帳はアプリを活用することも検討

している。

大島委員(業務の効率について)

早番・遅番に分かれており、業務が業務時間内に終了できなかったとしても、朝整理をして、業務時間を過ぎないように心がけて取り組んでいる。

仁保委員(業務の効率について)

法人としては、連絡帳の手書きを大切にしているので、効率化を考えると進んでいるわけではないと思う。ただコロナ禍において、WEB 配信が必要になったため、PC に詳しい職員がいて YouTube 配信等は詳しい職員が対応をして、効率が良い方法に取り組むようにしている。

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ①課題

- ・生徒に対して、修学年毎の達成目標地点を理解してもらい、今どの地点にいるのかのフォードバックを行うこと
- ・授業と実際の現場で行われている保育・援助内容をリンクさせ授業を行うこと
- ・教職員のカリキュラム理解
- ・授業間の連携

#### ②今後の改善方策

- ・学内で教員勉強会、研修会を積極的に実施(外部講師含む)
- ・通常授業の授業担当を現場の職員の方に依頼をして、授業内での指導強化
- ・教科目の教授内容毎にチームを作り、教科会を実施し授業間の連携を図る

#### ③特記事項

特になし

#### ④学校関係者評価委員会コメント

##### 田邊委員(学びについて)

児童自立施設・児童養護施設には発達障害を持っている子ども達が多い。発達障害があるから無理ではなく、固定概念を持たずに子ども達と接するということが大切だと思う。発達障害など様々なケースがあるため、現場職員も接しながら学んでいる。そのため、学生の内から障害のことを全てのことを知ることは難しい。できることであれば、施設見学やボランティアなどで関わりを持ち、体験型の学習をすることが学校では大切だと思う。

##### 磯山委員(学びについて)

発達障害は園児でも増えており、支援方法や保護者対応について悩んでいる。また、数年前と比べて非常に増えてきている。学生のうちから苦手なことがあれば、自分だったら何ができるのかということも学んでいったほうが良いと思う。在学中にディスカッションをするなど、学生のうちから学びを深めておいたほうが良いと思う。

##### 大島委員(学びについて)

児童養護施設では発達障害の子ども達が増えているので、在学中の授業でも学んではいたが、もっと在学中に集中的に学べばよかったと思う。在学中に実習や就職のガイダンスで現場の方の話を聞いたことを鮮明に覚えている。そういった経験を学校生活で多く経験できるといいと思う。

##### 仁保委員(学びについて)

ペープサート等、現場では実際に働きながら、制作物を作成することが難しいので、こども総合学科の場合、学生のうちから作成すること出来て良かった。また、沢山の行事が在学中にあり、行事を通してクラスをまとめることや制作をした経験は現場でも今も活かしている。ピアノも苦手だったので、学生のうちにもっと学べばよかったと思う。オペレッタも今の現場で行っているので、行事で身についたことが現場で役に立っている。



#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

- ・目標喪失することなく、学習意欲を継続させる指導(1年次の退学率低減)
- ・卒業後1年未満の早期退職の防止
- ・卒業生との継続的連携方法
- ・多様化する生徒への個別対応方法

##### ② 今後の改善方策

- ・担任と教科担当教員の生徒指導意識の統一
- ・学生が面談や相談をする先を複数準備し、全教職員で対応ができる体制作り
- ・基礎学力向上のための補講や日々の学習についていくことが難しい学生のサポート体制作り
- ・卒業生支援の体制構築(同窓会の活用)
- ・課題のある学生に対しての指導方法についての教員勉強会の実施
- ・カウンセラーの有効活用

##### ③ 特記事項

特になし

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

田邊委員(就職・人材について)

仲間と一緒にコミュニケーションをとることが大切だと思う。子どもたちと一緒に成長していける人材が大切だと思う。様々な大学や短大や専門学校の学生が実習に来るが、マッチしないことも多々ある。施設では、療育手帳を持っており、施設内にて通信で学び、高卒認定を取得している子どももおり、今後、横浜こども専門学校に入学を希望する生徒もいるかもしれない。専門学校で国家資格や手に職をつけて欲しいと思う。

磯山委員(就職について)

入園が0歳児は少なくなっていることは感じている。駅から離れている園は空きが出ている状況。過去は資格さえあれば就職ができる時代ではあったが、今後は質の高い人を求められる時代になってくると思う。それが子どもにとっては幸せなことだと思うので、より質を高めていくことが大切。それから資格取得だけでなく、社会でやっていける人材が大切になってくると思う。

大島委員(母校の繋がりについて)

在校生と繋がって、情報共有したいと思う。横浜こども専門学校先生達は実習巡回に来てくれる機会が多いため、そこで様々な話をする事ができ、学校と繋がっていると感じる。

仁保委員(園児少子化・母校の繋がりについて)

駅から離れている園ではあるが、園児募集をしているが、毎年埋まっている状況ではある。また、5.6年前よりは子どもの数が減ってきていることは感じている。実習巡回で知っている先生が来てくれたら、現場でも頑張ろうという気持ちになる。

## (5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ①課題

- ・変化をする就職環境に対して学校として柔軟に対応ができる体制作り
- ・給付奨学金が整備され学ぶ環境の担保ができたとしても、生徒自身の学ぶ意欲の継続させる方法
- ・生徒を取り巻く環境(実習先・就職先・保護者・卒業生など)とのネットワーク作り
- ・保護者の働き方が多様になり、就業時間内での連絡が取れず、教職員の時間外労働時間の増加

### ②今後の改善方策

- ・奨学金貸与者に対して今後のマネープランなど金銭に関する指導を継続的に行う
- ・就職環境の現状把握のための教職員研修の実施
- ・多様化する生徒に対応するためにもスクールカウンセラーの効果的な活用方法の検討
- ・保護者との連携ツールの導入

### ③特記事項

- ・経済的支援具体例  
特待生学費免除制度、初期費用軽減・学費分割制度、日本学生支援機構奨学金制度  
保育士修学支援制度、教育訓練給付金、三幸学園経済支援制度

### ④学校関係者評価委員会コメント

田邊委員(奨学金について)

児童養護施設で生活をしている子ども達も経済問題を解決すれば、学校生活も問題なく通えると思う。また、様々な奨学金制度が児童養護施設では使うことができるため、その制度を活用し進学を目指している。ただ住居問題・生活の仕方がわからないなどの問題もあり、そういったサポートをしていく必要がある。

大島委員(奨学金について)

20 歳までは施設へ在籍することができるが、お金について知らないことが多い。学校に奨学金についてサポートを手厚くしていただきたいと思う。

仁保委員(学費について)

在学中は特待生だった。学費免除があったので、家計を助けることもできたのではないかと思う。

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

### ① 課題

- ・メディア授業実施にあたり、教職員のパソコンスキル及び著作物の利用に関する知識不足
- ・現場で求められている人材育成をするために必要な施設環境の情報収集
- ・防災、安全管理の徹底

### ②今後の改善方策

- ・教育環境の振り返りと改善の継続と外部からの情報収集の実施
- ・防災訓練の実施
- ・教職員へ全体会議にて防災に関するマニュアルの確認の実施

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

磯山委員(防災について)

保育園は災害時に保護者の方が迎えに来られないケースを想定して防災訓練を行っている。園児がパニックになったり・アレルギーの子どももいるので、モノよりも子ども達の心のケア・安心できる場所があるということを対処していきたい。専門学校で行う場合は、生徒の安全確認の方法や帰宅方法の確認などが重要だと感じる。

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

- ・18歳人口の減少が進む中、保育業界の就業を希望する志高い入学者の確保

### ② 今後の改善方策

- ・保育業界理解とともに本校の教育理念や特色を分かりやすく伝えること

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

梅田(18歳人口について)

資格取得・現場に出るために勉強、現場実習をあることを理解した上で入学を決めていただき、募集活動を真摯に行っていきたい。

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

- ・継続した法令遵守の徹底

### ② 今後の改善方策

- ・コンプライアンス研修の定期的な実施
- ・教職員に対して会議や掲示物などで法令遵守の徹底を意識させる

### ③ 特記事項

- ・2019年度自己評価結果をホームページにて公開

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

磯山委員（個人情報について）

重要事項を説明し、写真を使用して良いかまで同意書を締結している。SNSの掲載など職員にも定期的に指導をしている。今の時代はとにかく事前に同意書を取ることが必須になるため、専門学校でも同じように実施していくことが必要である。



## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

### ① 課題

- ・コロナ禍においてボランティア活動先の確保が難しいため、ボランティア先の確保と生徒の参加率の向上
- ・今まで以上に社会貢献、地域貢献ができる活動の検討し、地域から愛される学校作り

### ② 今後の改善方策

- ・生徒に対してボランティアに関する動機づけの実施
- ・地域と連携し、貢献できる活動の検討の実施

### ③ 特記事項

- ・子育て支援活動を段階的に実施をしている（2020年度は WEB 配信などで対面実施開催は無し）
- ・地域貢献活動（ハロウィンイベント、町内こども会、地域の遊びの広場等）

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

大島委員（ボランティアについて）

在学中に保育園のボランティアにハロウィンイベントを行ったことがある。実習とは違い、3年課程のこども総合学科のボランティアは在学中に実体験を重ねることができた。今はコロナ禍でなかなか外部に出ることが難しい現状があると思うが、学校には生徒の学びの機会を多く設けてもらいたいと思う。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

田邊委員(全体を通しての感想について)

学生の学びのひとつとして、今後は通信のようなものも今後必要なのではないかと思う。学生の中には、どのように勉強を行ったらよいかわからないケースがあるため、学習方法などひとりひとりに適切なアドバイスを今後していただきたい。また、学生が魅力を感じる場所や、意見を聞く仕組みを作り、こちらだけでシラバス作るのではなく、しっかりと意見を聞いて反映をして欲しい。教員・学生とのキャッチボールが必要になると思う。

磯山委員(全体を通しての感想について)

集団行動ができない生徒においては、何の為にみんなでやるか・なぜそうなのか、やりたくないという意見も聞き入れ、どんなものだったら参加できるか、を理解してもらう必要がある。学生達にもお楽しみ会やグループでの行動、集団で行うことの楽しさを教えて頂けたらと思う。  
退学者問題に対しても、保護者・高校生に資格を取得することと学校を卒業することは別物であることを入学前に理解をしてもらうことが大切だと思う。

大島委員(全体を通しての感想について)

自分の現場以外の話を聞いて勉強になった。卒業して、施設職員は、対人の仕事であるため、行事などで在学中に集団として行動したことが今の自分の仕事に活かされていると思う。

仁保委員(全体を通しての感想について)

自園だけではなく、自分の現場以外の話を聞くことができ勉強になった。コロナ禍で行事を行うことや行事の大切さを指導していくことは大変だと思うが、学校行事で学んだことは現場でも活かしているので行事を続けてほしいと思った。